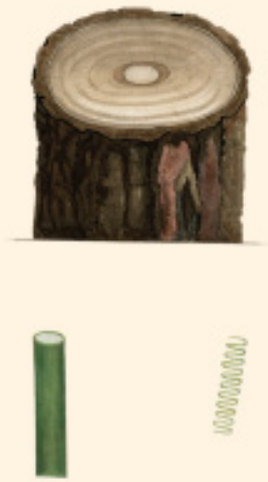
表紙・裏表紙・目次（写真）
La botanique de J.J. Rousseau
（請求記号 471.1/Kj2）



KWU Library News 発行／京都女子大学・京都女子大学短期大学部　図書館
〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35番地
TEL: 本館 075-531-7070／分館 075-531-9010／雑誌室 075-531-7069
E-mail: tosho@kyoto-wu.ac.jp
平成20年3月発行

KWU 図書館だより Library News

No. 12 2008

特集 資料紹介

- La botanique de J.J. Rousseau
- 山城四季物語

Kyoto Women's University

Contents

特集

〈資料紹介〉
ルドゥテの図版による『J.-J.ルソーの植物学』…… 3

〈貴重書紹介〉
『山城四季物語』…… 25

図書館長のあいさつ
「図書館と情報センター分離の時流の中で」…… 1

図書館展示報告
第7回 図書館資料特別展観「鴨東散華〈貳〉」…… 8
「はまぐり」「キンダーブック」…… 9
分館ミニ展示・他館貸出資料 …… 10

図書館からのお知らせ
本館・分館・雑誌室 …… 15
The New Yorkerの紹介 …… 17
図書館サービスの利用に関するアンケート結果 …… 18
個人文庫・コレクション …… 19

コラム
「生涯のテーマを決めて読書を楽しもう」…… 12
学生コラム
「図書館に行ってみよう!」「図書館を利用して」…… 20

図書館と情報センター分離の時流の中で

図書館長　海老井 英次

図書館を囲む情勢の変化か、最近幾つかの大学図書館で、一時めざましかった「総合学術センター」的なあり方を変えて、図書館と情報センターを分離していく傾向がみられている。図書や印刷資料を蓄積して研究や教育に対応する機能と、パソコンを端末としてネットを介して情報を受信したり発信したりする機能とが、一緒の方が便利であったり、効率的であるとの思想が変化を見せているかのようである。印刷媒体はそれなりのシステムを要し、情報媒体はまた独自のシステムで運用されているわけであり、その一部がパソコンを使うという点で重なっているがゆえに、印刷と情報を合併して処理する形でのシステムが選ばれていたのであるが、どうやら二つのあり方は同類であるよりも異質なものとしての性格を確認されつつあり、分離して扱う方がより効率的であることがわかり始めたということであろうか。例えば、電子ジャーナルと言われるものが広く普及しているが、国内はもとより海外で発行されたジャーナル類をインターネットを介して購読利用出来るシステムであり、理系の分野ではその利便性とともにいち早く海外の研究成果などを知ることが出来てニーズの高いものであるが、その利用者が極めて限定されていることもあり、費用対効果の点において割高感が生じ始めて、経費削減の流れの中でまず問題にされる存在になっているようである。電子ジャーナルの形態そのものが問題ばらみであることも聞かされる。図面が削除されていたり、細かい図表などが鮮明でなかったり、画面のドット数の限界による問題点もあると聞く。それ故に電子ジャーナルを受信契約しながら、印刷媒体をも購入するという経費の二重払いがあったりする。限られた予算しか持たない大学図書館では見過ごすことの出来ない事態であろう。書庫という名の収納スペースを広大に準備しておかなければならない印刷媒体に代わって、コンパクトに収納出来たり、パソコンが一台あれば情報を駆使出来る情報媒体のあり方は極めて魅力的なものなのであるが、それが万全でないこともまた現状では明らかなようである。

情報センターを介して、自館所蔵以

外の膨大な書籍や資料が閲覧出来ることは極めて便利で、使い方を間違えなければ研究や教育に多大な恩恵をもたらすものであることは、異論が無いところであろう。私が関わる日本近代文学の分野でも、国立国会図書館の明治期刊行物の電子データー化によって、明治期の稀覯本などが自室のパソコンで閲読出来るようになっており、私達の学生時代からしたら当に隔世の感があり、夢のようなことが現実になっているのである。五十年程前には、芥川龍之介の「羅生門」の初出誌である、「帝国文学」ですら国会図書館の資料室で面倒な手続きをした上で特別閲覧という形で、当に拝むように見せてもらったのであった。コピーはもちろん写真に撮ることも不可で、もっぱら鉛筆で本文をそのままに筆写して帰ったのであった。やがて写真で撮ることが出来るようになり、コピーが出来るようになる。雑誌そのものも復刻されて手近に置けるようになる。そして今や、自室のパソコンで簡単に瞬時に読める様にさえ成った。技術の進歩、社会的体制作りの成果として有り難いことである。しかし、時折のぞくインターネット上のブログを見ていて、何だか寒気を覚えるような事態に出会うことがある。一学生が「芥川で卒論を書くのだけど、何かいい案内書がある?」と書き込むと、間もなく「自分は何を読んだよ」とか「何々がお薦めだね」とか、好意的な書き込みから始まって、一本の卒論という書き物をしたことだけが全てのような知識人達による百家争鳴の論争が繰り広げられていく、この言説は一体何なのだろうか？　いかにも物知り顔の書き手達は、無署名という特権を最大限に活用しているのであろう。こういう世界をのぞいた後に、図書館に入ってみると、背に著者の名を記した書籍が並んでいることが特別の世界に見えてくる。責任をもった言説、知識の集合だからであろう。その人の持つ本箱を見れば、その人が分かると言われていたが、未だ有効な言葉であろうか。

図書館を見ればその大学が分かるとは言えるであろう。大学の顔としての本学図書館は充実した素晴らしい蔵書を有している。積極的に活用していただきたい。

ルドゥテの図版による『J.-J. ルソーの植物学』
（1822年、パリ刊）

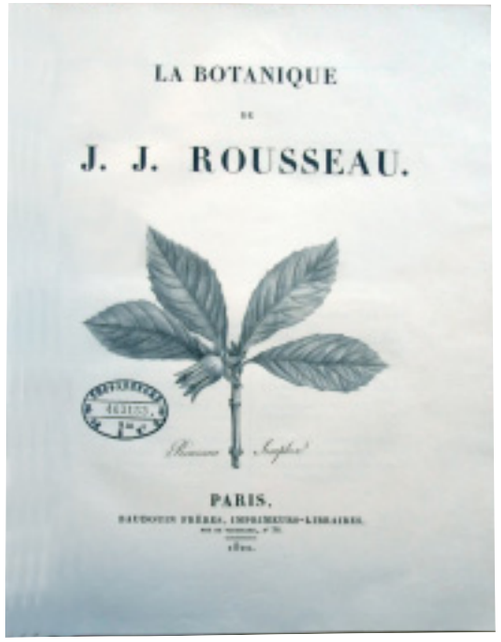
きら星のごとくならぶヨーロッパの画家のうちで、天才と呼ばれるのは、ただ一人、かのラファエッロである。少なくとも、19世紀のはじめまでは。そのころ、フランスに、「花のラファエッロ」の名をうたわれる絵描きがいた。ルドゥテPierre-Joseph Redouté（1759-1840）。「花の」という形容が添えられるのは、この人が植物の絵を専門に描いていたからである。

どうして、植物専門の画家が生まれたか。それを一言でいうのはむずかしいけれども、植物、動物、鉱物をあつかう、博物学という学問がすすんだ結果であることはまちがいない。たとえば、パリには、すでに1635年に、王立薬用植物園が設立され（現在のパリ植物園と国立自然誌博物館）、そこには、研究のために、世界中から珍しい動物や植物が運びこまれていた。植物の種子がくれば、種をまいて、育て、花を咲かせ、実らせ、さて、花と果実の姿を記録し、保存しようとすれば、図に描き、標本をつくるほかはない。そこで、博物写生図という絵画のジャンルが誕生することになる。

ルドゥテも自然誌博物館のために水彩の写生図を描いているが、その植物画家としての成功は、点刻という技法をもちいた、多色刷りの版画集の刊行による。ルドゥテの原画による図版集は名高い『ユリ科植物図譜』8巻（1802-1816）と『バラ図譜』3巻（1817-21）をはじめとして、挿図を描いた植物学書も含めれば、45点にのぼる。その一つが、ここに紹介する『ルソーの植物学』である。

18世紀啓蒙思想の立役者であるジャン=ジャック・ルソー（1712-1778）は、いかにも博物学の世紀の人らしく、植物好きであり、植物学好きであった。植物採集をはじめたのは1764年、スイスに逃避中のことだから、五十歳をすこし出たころで、植物学はかなりの晩学である。『孤独な散歩者の夢想』という晩年のエッセイには、植物学に愛着をおぼえるのは、植物を思うとき、いつも記憶によみがえってくる、一つながりの心楽しい観念、「草地、水辺、木立、一人でいること、静けさ、そして、すべてそうしたものに囲まれるときに得られる安らぎ」のおかげであると書いている。ルソーは執拗な妄想にさいなまれた人物であり、心の慰籍と束の間の幸福を自然にもとめて、なんの不思議もないが、その自然に向きあう態度は、たとえば、日本の中世の草庵にこもった隠遁者の態度とはまったくちがっている。それは、ヨーロッパの近代が、人間主体とそれが対峙する世界という構図、他のいずれの文化にも見出すことのできない哲学的構図をすでに成立させていたからにほかならない。ルソーはただ自然を歌う人ではなかった。一つ一つの植物について、花を、葉を、根

〈1〉



LA BOTANIQUE

DE

J. J. ROUSSEAU.

PARIS,

〈2〉

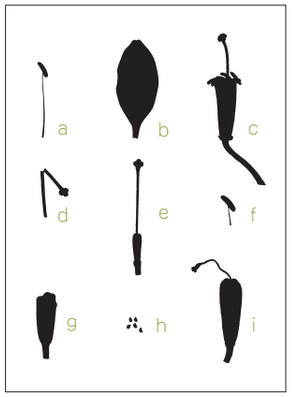
を観察する。分類し、同定する。採集し、標本をつくり、学名を記載する(ルソーの標本は、相当数が現存)。のみならず、植物を愛する道を伝えることに熱意をもやして、親しい人たちに、植物と植物学についての手紙を送り、他方では、初心者向けの用語辞典を編集する(未完)、ということをした。

本書、『ルソーの植物学』は、4人の人にあてた、計34通の手紙と辞典の草稿をテキストとして、ルドゥテの原画による多色刷り版画65葉をおさめた図版集である。初版は1805年で、四折版(多色刷り図版)、二折版(白黒刷り図版)の同時刊行。再刊第1版、1821年。第2版、1822年。すなわち、本書は再刊第2版である。いずれも、早くから、非常な稀覯書であって、1870年代後半、ラスキンが出入りの古本屋に探させたが、とうとう手に入らなかったそうである。あのゲーテさえも、所蔵していたのは再刊第2版で、そのことを、『植物変態論』の付録の文に、愉快そうに書いている。

さて、本誌に掲載してある挿図を見てみよう。最初は、本書とその扉〈写真1、2〉。カットは、ルソーの名を属名とする植物。

つぎに、植物図だが、もとの図版のうち、はじめの46葉は「植物学の初歩を説く手紙」、ある若い婦人にあてて、植物の観察と分類、植物学の勉強のしかたをていねいに説明してゆく、8通の手紙の内容にそくしている。それらの手紙は、現行の科の名でいえば、ユリ科からはじめて、アブラナ科、マメ科、シソ科とゴマノハグサ科、セリ科、キク科にいたり、さらに果樹(バラ科)、押し葉の標本のつくり方でおわるから、

〈3〉



a 雄しべ
b 花弁
c 雌しべと雄しべ
d 雌しべ
e 雌しべと子房
f 葯
g 子房
h 種子
i 蒴果

〈4〉

図版も、ユリの仲間の草花が、はじめに美しい姿を見せることになる。

そこで、まず、オレンジリリー（Lilium bulbiferum）〈写真4〉。点刻に重ねられた、多色刷りの色合いのなんという微妙さ。複製でさえ、じっと見ていると、これを触覚値というのか、茎や葉や花弁の手触りまで写しとっているような気がしてくる。図の植物学的な正確さについては、もちろん、いうまでもないが、続く図版には、さらに、花と果実のそれぞれの部分が細かく描かれている。花は、フランスユリ（Lilium candidum）〈前ページ：写真3〉。ルソーは手紙で、3あるいは6という数字に注意をうながしている。二枚の図で、これらの数字を確認してみるのもおもしろい。

ユリ科の植物から、もう一つ。サフラン（Crocus sativus）〈写真5〉。日本の色でいうと、浅紫に近い、いま咲こうとする花の優美さ。球茎と白い根も印象的である。サフランは地中海の原産で、栽培は紀元前をずっとさかのぼる。日本には幕末、文久のころに渡来した。

つぎに、セリ科のノラニンジン（Daucus carota）〈写真6〉を見たい。野菜のニンジンの野生種である。セリ科のもとの名は繖形科。繖は傘。牧野富太郎は「からかさばな科」と呼んだ。すべて、Umbelliferaeという科名（原義は傘）の訳語で、花の姿を傘に見立てたもの。繖形花の分類は古く、蘭学に名高いドドネウスの『本草書』（1554）にすでに出ている。いわゆる自然科である。図の左下に、花と果実の小さい部分図がある。

最後に、モモ（Prunus persica）〈写真7〉の図をあげる。この葉。この果実。絵画としてのすばらしい統一感。まことに逸品である。

ルソーは「手紙」で植物の勉強をすすめてゆく態度について繰り返し書いている。それは、観察をなにより大切にするということにつきるから、読者は、植物の具体的な記述がつぎつぎになされるにつれて、否が応でも、みずから観察するように仕向けられ、観察の楽しさをしだいに納得するようになる。その意味で、ルソーは理科教育の先駆者であった。この人の名がいまもフランス植物学史に残るのは、専門的業績があるゆえではない。アマチュア精神でもって、植物学の普及に貢献したからである。後世のわれわれも、子供たちに、この乏しき時代にある君たちにとってもっとも必要でもっとも重要な、真の知識と血のかよった思考の力を通して、君たちの精神と情操を育ててくれるのは、生ける自然を相手とする博物学なのだ、と声をはげまして伝えていかなければならない。

（文学部教授 高橋達明）

〈5〉

〈6〉

〈7〉

La botanique de J.J. Rousseau
（請求記号 471.1/Kj2）

図書館展示報告

図書館資料特別展観

第7回 図書館資料特別展観「鴨東散華〈貳〉」

〈平成19年11月13日～11月27日　建学記念館「錦華殿」にて実施〉

平成18年度に実施の第6回図書館資料特別展観「鴨東散華〈壹〉」に引き続き、平成19年度は「鴨東散華〈貳〉」を実施しました。「絵はがき・名所図会、そして花と紅葉と買物と」をテーマに、このたびは鴨東五条通から四条通の地域を扱い、「花・紅葉・買物」を柱にした展観を行いました。2週間の展示期間中には、学内外より多数の方々にご来場いただきました。（来館者数560名）

◇主な展示資料：

京　　童：6巻／中川喜雲〔著〕(請求記号 291.62/N32/1～6)
京童跡追：6巻／中川喜雲〔著〕(請求記号 913.51/N32/1～6)
京　　雀：7巻／浅井了意〔著〕(請求記号 291.62/A83/1～7)

▽京雀

▷「八道絵」掛軸（請求記号 721.9/R42）

京都女子大学図書館新収蔵貴重書展観「奈良絵本『はまぐり』―霊験物語の拡がり―」

〈平成19年10月24日～10月30日　建学記念館「錦華殿」にて実施〉

平成19年度新たに収蔵した貴重書『はまぐり』について、国文学科公開講座開催にあわせて展観を実施しました。

はまぐり／書写者不明, 2冊 △▷
（請求記号 913.44/H23/1, 913.49/H22/2）

図書館所蔵「戦前のキンダーブック」展観

〈平成19年11月2日～11月11日　建学記念館「錦華殿」にて実施〉

図書館所蔵の「戦前のキンダーブック」についての展観を実施しました。

教科書だけではなく、こういう読み物でも戦争について載せることに衝撃を受けた。子どもたちの日常的な生活も含めた教育本でもあるのだと感じました。
（アンケートより）

有名な画家が小さな子どものために絵を描いていたことに驚かされました。
（アンケートより）

図書館展示報告

分館ミニ展示

図書館分館では平成18年度より“京都女子大学図書館分館ミニ展示”を行っています。京都女子大学図書館で所蔵している様々な資料を皆さんに知って頂きたい、という主旨のもと、毎回テーマを決めて資料を展示しています。

第3回 資料展示
美の表紙絵 ～江戸版本から近代雑誌まで～

〈平成19年4月16日～4月27日〉

テーマ『表紙絵の変遷』

江戸時代から近代にかけての表紙絵に注目し、変遷を追いました。江戸時代の赤本『さるかに合戦』から、明治期ではアールヌーヴォーの影響がみられる与謝野晶子著『恋衣』などの表紙絵を紹介しました。

第3回 資料展示風景

分館ミニ展示では展示資料案内冊子や展示補助資料を作成しています。

また、同時にアンケートも実施しており、皆さんから寄せられたご意見・ご感想を参考に、より良い展示を目指しています。

企画展のほかにも、随時資料を展示していますので、ぜひ分館へ足を運んでみてください。

出品貸出資料

平成19年度開催された以下の展覧会に、本学所蔵の資料を出品しました。

東京国立博物館 特別展
「レオナルド・ダ・ヴィンチ―天才の実像」

〈平成19年3月20日(火)～6月17日(日)〉

出品図書：Ptolemaios Cosmografia：Cosmographia
(請求記号440/Ki667) 貴重書

Clavdi Ptolemaei Geographicae Enarrationis Libri Octo
(請求記号290.1/Ki674) 貴重書

『**建築論**』/ フランチェスコ・ディ・ジョルジョ・マルテイーニ著；ピエトロ・C・マラーニ原典翻刻, 校訂；日高健一郎訳
(請求記号523.37//X186)

細見美術館
琳派展X「神坂雪佳ー京琳派ルネサンスー」

〈平成19年9月22日～12月16日〉

出品図書：『**蝶千種**』神坂雪佳著
(請求記号727/Ka38/1-2) 準貴重書

蝶千種

徳川美術館【新館開館20周年記念 秋季特別展】
「王朝美の精華・石山切 ーかなと料紙の競演ー」

〈平成19年10月6日(土)～11月4日(日)〉

出品図書：『**三十六人集**』飛鳥井雅章筆
(請求記号KN911.138/Sa64) 貴重書

三十六人集

Column コラム

「生涯のテーマを決めて読書を楽しもう」

本学前教授　増田 信一

東京圭心社
R.スティブンソン 作
亀山 竜樹 訳
(081/F36/C-76)

私は子どもの頃から読書好きでしたから、教員になってからも読書教育に力を入れてきました。読書は読み手の目標の持ち方によって、読書材をグループ化することが活発になっていきます。一つのテーマについて読書材を結びつけていくと、読書活動が構造化されて、楽しみが倍加されてくるのです。

次に示す「ブックリスト」はその例です。明治図書の月刊誌「教育科学・国語教育」に、平成19年4月号から一年間、「読書意欲を高める多読のすすめ」という題で連載しました。本大学図書館でごらんいただければ幸いです。

福音館書店
なかがわ りえこ 作
おおむら ゆりこ 画
(909.3/K021/93)

1. 多読のきっかけ
「宝島」スティブンソン
「啄木歌集」石川啄木
「宮本武蔵」吉川英治

2. 絵本の楽しみ
「しずかなおはなし」マルシャーク
「かにむかし」木下順二
「ぐりとぐら」中川李枝子

3. 童話を好む
「車の色は空の色」あまんきみこ
「みにくいあひるの子」アンデルセン
「泣いた赤おに」浜田広介

4. マンガにのめりこむ
「ちびくろさんぼ」バンナーマン
「カムイ伝」白土三平
「火の鳥」手塚治虫

金の星社
浜田 広介 作
(081/F36/B-47)

金の星社
L.N.トルストイ作
樹下 節 訳
(081/F36/B-52)

5. 友情を育てる
「トムソーヤの冒険」マーク・トウェイン
「二十四の瞳」壺井栄
「赤毛のアン」モンゴメリー

6. 戦争を考える
「冒険者たち」斉藤惇夫
「ガラスのうさぎ」高木敏子
「アンネの日記」アンネ・フランク

7. 心の豊かさ
「イワンのばか」トルストイ
「エミールと探偵たち」ケストナー
「鼻」芥川龍之介

8. 試練にどう対処するか
「シートン動物記」シートン
「ガンジー伝」イートン
「車輪の下」ヘッセ

金の星社
E.T.シートン 作
前田 三恵子 訳
(081/F36/B-86)

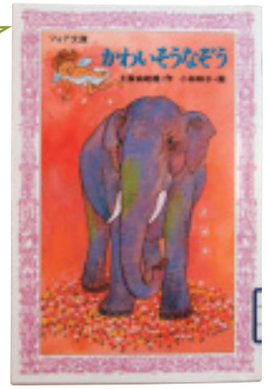
金の星社
E.T.シートン 作
前田 三恵子 訳
(081/F36/B-87)

金の星社
E.T.シートン 作
前田 三恵子 訳
(081/F36/B-101)

Column コラム

岩崎書店
宮沢 賢治 作
(081/F36/B-62)

金の星社
土家 由岐雄 作
(081/F36/A-24)



9. 美しい人間愛

「グスコーブドリの伝記」宮沢賢治
「老人と海」ヘミングウェイ
「楢山節考」深沢七郎

10. いのちの大切さ

「八郎」斎藤隆介
「葉っぱのフレディ」レオ・バスカーリア
「夕鶴」木下淳二

11. 死に方を考える

「かわいそうなぞう」土家由岐雄
「星の王子さま」サン・デクジュベリ
「阿部一族」森 歐外

12. 空想の輪を広げる

「木かげの家の小人たち」いぬいとみこ
「だれも知らない小さな国」佐藤さとる
「注文の多い料理店」宮沢賢治

あなたの読書活動にも、いくつかのテーマを設定して、じっくり育ててみませんか。自分のテーマ読書に結びつきそうな本をみつけて、検討してください。そうすることによって、自分を深くみつめる力を養いましょう。

〈図書館より〉
増田先生が連載されていた月刊誌「教育科学・国語教育」(明治図書出版)は、雑誌室にあります。
(請求記号 P375/Ky4)

図書館からのお知らせ

本　館

◆新着児童書コーナーが出来ました。

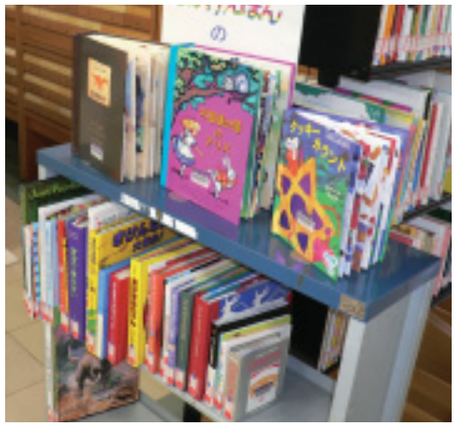
平成19年度に入った児童書が並んでいます。
※平成18年度より前に入った図書は、本館M3Fに並んでいます。

◆5Fに続いて図書館入口にも、新着案内コーナーが出来ました。

こちらは、テーマに添った図書を紹介しています。

◆しかけ絵本が入りました。

「飛び出す絵本」とも呼ばれる、本を開くと絵が飛び出す図書です。
新着児童書コーナーと同じ所に並んでいます。



◆平成19年度夏期書架整理に伴い、N700及びN800番台の図書が閉架書庫に移動しました。

分　館

◆藤原利一郎文庫

このたび、京都女子大学図書館の個人文庫に「藤原利一郎文庫」が加わりました。

〈内容〉タイ・ベトナムを中心とする東南アジア史関係資料

分館1階西側の書架に配架されています。ぜひご利用ください。

◆また、新しく展示ケースを一台設置しました。

◆叢書コーナーができました

分館では平成19年度の書架増設、整理に伴い、利用頻度の高いシリーズ資料について各コーナーを設けて別置しています。

コーナー名、配架場所はOPACの検索結果に表示されます。分館のフロアガイドにも掲示していますので、本を探す時は参考にしてください。

古典文学大系及び叢書コーナー
『日本古典文学全集』（小学館）
『新編 日本古典文学全集』（小学館）
『日本古典文学大系』（岩波書店）
『新 日本古典文学大系』（岩波書店）

その他　別置き資料
四庫全書コーナー
日本思想大系コーナー
大日本史料コーナー
往来物大系コーナー

雑誌室

①『ニュートン別冊』及び『別冊家庭画報』が、図書館本館に配架されることになりました。
　また、資料種別が「図書」となったことにより、一般貸出が可能になりました。
②昨年度まで本館にあったゼロックスカラーコピー機は雑誌室に移動しました。

◆新規購入雑誌のお知らせ

雑誌室では、今年度から軽雑誌コーナーに新しく『週刊文春』・『ぴあ』が入りました。

また、昨年度雑誌室のみ配架されていた『ダ・ヴィンチ』が本館・分館のブラウジングコーナーにも配架されています。

※他にも、軽雑誌コーナーには、たくさんの種類の雑誌があるので、是非一度ご覧ください。

『The New Yorker』 Vols. 18-72/#42（1942/Feb.-1997/Jan.）

本雑誌は平成19年度特別研究図書費により購入し、本学図書館で閲覧できることとなった。

ハロルド・ロスが1925年に創刊した文芸雑誌であり、フィクション、社会論評、ある人物に照準をあてた「Profile」、風刺漫画などが掲載されている。毎号の表紙（写真掲載）もイラストが楽しい。

また、毎号掲載されている短編小説は質が高く、アメリカ短編小説の発展に多大の影響を与えた。レイチェル・カーソンの「沈黙の春」、トーマス・カポーティの「冷血」、チャールズ・ライクの「緑色革命」他にJ. D・サリンジャー、ウラジミール・ナボコフ、アーウィン・ショーの作品などがThe New Yorker誌に掲載された。

ニューヨーカーは変わらない雑誌といわれる。たとえば1942年2月21日号と1985年2月25日号を比べると「Goings on About Town、The Talk of The Town、Profile、Books」などの項目は、両誌とも見うけられる。さらに、広告ページを除いて、写真が一切使用されなかったことも特徴としてあげられる。文章以外は全て「ドローイング（素描）」である。

その他に、イベント、映画、演劇、コンサート情報などニューヨークのタウン情報や全編に散見される広告は「時代を映す鏡」として貴重な記録である。

本学に所蔵となったのは、Vols. 18（1942年2月号）からではあるが、原資料が1942年から1997年までほぼ連続して見ることができるのは、西日本では本学だけである。

アメリカ現代文化に興味のある方は、ぜひご利用ください。

△ 毎年2月に発行の表紙

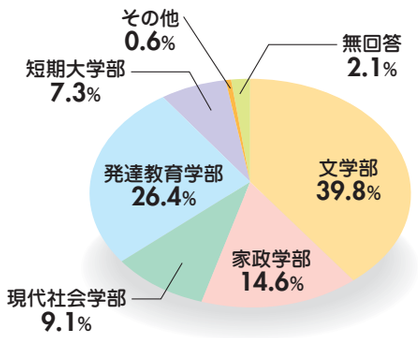
図書館サービスの利用に関するアンケート結果（データは平成19年12月31日現在）

図書館サービスの利用状況を調査するアンケートを実施しました。

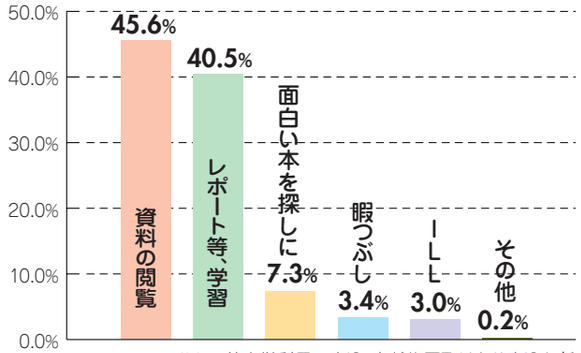
実施期間:平成19年11月26日～12月7日
配布方法:図書館カウンターでの手渡し
回収方法:図書館館内にアンケート回収箱を設置
配布枚数:1063枚

■アンケート分析

学部別利用状況



図書館の利用目的



※ILL…他大学利用の申込、文献複写取り寄せ申込など

□参考資料□

月別貸出冊数の過去推移

		年度				
		H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度
月別	4月	4,746	5,930	5,614	5,855	5,880
	5月	5,444	6,942	6,071	6,693	6,404
	6月	7,157	8,408	7,366	8,444	8,127
	7月	6,634	7,036	6,457	7,058	9,238
	8月	1,099	1,353	1,458	1,603	2,163
	9月	2,654	3,882	3,337	4,080	4,051
	10月	6,466	6,747	6,335	7,021	7,950
	11月	6,023	7,001	7,241	7,420	8,340
	12月	6,514	7,525	6,149	6,955	7,517
	1月	4,971	5,880	5,230	5,205	
	2月	1,377	1,444	1,520	1,458	
	3月	815	877	769	711	
計		53,900	63,025	57,547	62,503	59,670

月別入館者数の過去推移

個人文庫・コレクション

京都女子大学図書館にある、個人文庫・コレクションの紹介です。
図書館本館・分館の閉架書庫や特別コーナーに配架してあり、**貸出・複写はできません。**
利用を希望する場合はカウンターへ申し出てください。

個人文庫　元・本学教授等の蔵書を、本学が譲り受けて所蔵しているものです。

所蔵	文庫名	旧蔵者名	蔵書内容
分館	**吉澤文庫**	吉澤義則（1876-1954）	平安時代の文学・和歌などの国語・国文学・史学・書道関係資料
	安藤文庫	安藤勝一郎（1879-1967）	19世紀末英文学を中心とした稀覯書を多く含む。初版本を多く架蔵する
	羽溪文庫	羽溪了諦（1883-1974）	インド学・仏教学などの東洋思想、及び西域研究のための歴史書
	三木文庫	三木幸信（1900-1990）	江戸時代の国語学（東條義門・本居宣長・伴信友）に関する資料
	高畑文庫	高畑彦次郎（1883-1945）	漢籍と民国以後の図書を中心とした資料
	田村文庫	田村實造（1904-1999）	中国史関係、特に征服王朝（満州族、蒙古族）を中心とする資料、および欧米の中国研究書
	谷山文庫	谷山　茂（1910-1994）	藤原俊成をはじめとする中世の和歌集、および和歌史、歌学書に関する資料（古今集、千載集、新古今集が中心）
	阪倉文庫	阪倉篤太郎（1879-1975） 阪倉篤義（1917-1994）	中世・近世の国文学・国語学・謡曲等に関する図書および雑誌
	藤縄文庫	藤縄謙三（1929-2000）	古代ギリシャ史を中心とした西洋古典史学資料
本館	**藤原文庫**	藤原　惠（1907-1990）	新聞・放送・広告などマスコミ学・新聞学関係の資料
分館	**藤原利一郎文庫**	藤原利一郎（1915-）	タイ・ベトナムを中心とする東南アジア史関係資料
本館	**石附文庫**	石附　実（1934-2006）	近代日本の海外留学史・比較国際教育学・比較教育風俗研究及び学校文化史に関する資料
分館	**佐伯文庫**（予定）	佐伯　富（1910-2006）	中国近代史研究で業績をあげられた佐伯富先生の旧蔵書 ※現在整理中

コレクション　図書館が永年にわたり、研究の対象として収集してきた図書資料です。

所蔵	コレクション名	コレクションの内容
分館	**九條武子コレクション**	100点を超える九條武子女史の歌集、絵画、書簡。 武子女史直筆のものを多く架蔵している
	Dylan Thomas collection	イギリスの詩人　Dylan Thomas（1914-1953）の全作品及び研究書
	Jonas Family collection	Jonas Familyが収集した19世紀末から20世紀初頭の英国さし絵入本を中心とした稀覯書（アール・ヌーヴォーやアール・デコの影響を受けた装丁を含め美しい書物）
本館	**ヨーロッパ教育改革史コレクション**	15世紀から20世紀までのヨーロッパを中心とした西洋近代教育学・教育改革に関するコレクション。John Locke（1632-1704）などの稀覯書を多く含む

学生コラム

図書館に行ってみよう！

文学部国文学科 4回生　山下祐美子

1回生、「図書館って広い！請求記号って何？欲しい本はどこ？」と館内をさまよう。2回生、OPACで見つけた本の請求記号とタイトル片手に、資料にたどり着き、レポートを書き、少し自信を得たような気になる。3・4回生、「卒論に必要な資料が学内にない！」、「出典は○○が所蔵する写本！？出版はされていないの？」などと、1・2回生とは違った大変さを味わう。

これは私の在学中の姿です。在学中の皆さんは、「大げさな」と笑われるでしょうか。それとも、「私もそうなりそう」、「今まさにそう！」とご同意くださるでしょうか。ともあれ前者・後者の方とも、ぜひ図書館主催の情報検索講習会に参加してみてください。効率的な資料の探し方が分かるようになります。

それでも、自身での検索には行き詰まる時があります。それを手助けしてくれるのが、司書の方によるレファレンスサービスです。私はこれに何度も助けて頂きました。

これから皆さんは、多くの課題をこなし、最終的には卒論を作成されることと思います。そのパートナーとなってくれるのが図書館です。今から是非、図書館に足を運んでみてはいかがでしょうか。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

図書館を利用して

短期大学部文学科 国語・国文専攻 2回生　村居 美緒

私が最初にこの大学の図書館を一通り見て思ったのは、「小説が少なすぎる！」でした。

私は小説が大好きでよく読むのですが、古典や学術書には殆ど興味が無かったのです。なので、テスト期間以外で利用することはないだろうなぁと思っていました。しかし最初のテスト期間を迎え図書館で資料を探していると、面白そうな本が沢山あることに気付きました。それは今まで読んでこようとしなかった古典や学術書の類に多く、目が覚めるような心地でした。

そこで、私のおすすめの本は、内田百閒の「冥途」です。幻想短編集で、この本に収められている物語はどれもとても好きなのですが、やはり一番印象に残ったのはタイトルにもなっている「冥途」でした。「私」はある暗い夜、土手の下にある一軒の一ぜんめし屋を見つけて入り、そこで隣に居た四・五人の一連れの中の一人の声を聞いて、何故か悲しくなり泣いてしまう。そしてしばらくして、その声の主が死んだ自分の父親の声だということに気付き…というお話です。短いお話なのですが、「私」の心情が胸に迫ってきて苦しくなりました。特に声が父親のものだと気付く前の何ともいえない悲しさが沁みるようで、この部分の心理描写がとても好きです。

この大学図書館が持つ資料の魅力に気付いてからは利用する頻度も増え、様々な種類の本を読むようになりました。そのおかげで興味の幅も広がり、以前より学べることが格段に多くなったと思います。

京女本『山城四季物語』
〈表紙・題簽・三園貼紙〉

十六年ヲ歴テ享保六辛丑年二月題号ヲ改テ都歳時記ト称シ再刻ス京伝ノ骨董集ニ引ケルハ此モノナリ繁華ノ地ニ住セル京伝サエモ四季物語ヲ見ルヿ得ズシカラバ此本稀ナルヿヲ知ベシ而ルヲ邂逅ニ是ヲ得テ秘蔵ス此事奥書ニモ識シタレドモ猶又コヽニ識ス珍重スベキモナリ

三園誌之

と識した一紙を貼じて居り、三園自慢の一書であった。

祇園会の景は数々の書にあるが、『山城四季物語』から拾われた事はほとんどない。そこで巻第三よりこれを拾って置く。

（短期大学部教授　八木意知男）

事、其次称二二行事三行事一、古以レ火燎二此榊一、是禳レ疫之義也、於今雖レ無レ燎之依レ旧、園立神人謂二背炙衆一、人頓宮北門下西岡宿者左右列座、其前安二祓棚一祓レ参詣之人一、而記二其人之年齢支干於小木札一添諸人所レ捧之銭而投二疫而塚之内一、古此札与二疫塚一焚之、是禳レ疫義也、倭俗男女十九歳謂二大厄年一、自二十五日一参詣十九日特多、是称二疫神参一、帰洛買二弓矢一、為二児童之玩一、八幡神尚武故武家特崇レ之、地人売二弓矢一或称二破魔弓一、又古此処有二祇園社一故売二蘇民将来木符一、参詣人携帰撃二小児之衣領一、如レ此則除疫云是中華剛卯之微意乎。

ここでは、疫神に対して言及もされているが第八行目より厄神参りに対しての言が顕著である。しかも『延喜式』を引くことは無い。この『日次紀事』の記事を最も良く採り込んだのは文化三1806年に刊の『諸国図会年中行事大成』(臨川書店、版本地誌体系所収本)である。春暁斎速水恒章が記すところは次の通りである。

○八幡疫神斎　延喜臨時祭式云、畿内の界十所に疫神を祭る。山城河内の界にありと云々、諸神記云前朱雀、八神男山石清水の畔に封之、九条より五条坊門に至て十九町の内を擁護すと云々

昨十八日宿院頓宮前に榊数千本を立つ、是を青山といふ、同夜子の刻宮守座の神人各内背に榊を囲立宮守の上首を一行事と云、其次を二の行事三の行事と云、此神祭一行事の深秘にして同刻柊尾より神体勧請の事あり、又頓宮北門下西岡宿者左右に列座し祓棚を安し、参詣の人を祓ふ、其人の年齢支干を小木札に記し、是を榊の内に投す、伝云古しへ此榊と札とを焚て疫を攘ふといふ、故に榊を囲立神人を背炙家と云、又十五日より今日に至るまで破魔弓及び毛鑓とて竹を輪にし是に紅黄青白の紙を付中に竹竿を通して売る、詣人求て土産とす、又蘇民将来の木札を売る、詣人是を小児の衣の背縫に繋れハ疫を除くなり、今日男女山腹より出る水を竹の筒に盛て疾病ある者これを飲ミ、或いは痛所に塗れバ愈と云り、又厄年に当る人疫神堂の庭の砂を取りて寝所の下に置厄年過て其砂に倍して納れハ難なしといふ

ここには、疫神解説と厄神解説が集大成されてある。しかも、今日一月十八日を「**青山祭**」と称する由縁も含まれる。なお、安永九1780年に刊行の『都名所図会』巻五にはつぎの如くであって、

(ア)挿画

やはた参りの下向
にハ破魔弓。毛鑓
などの武器を求
て土産するハ神功
皇后三韓を退治
ありて御凱陣
まし〳〵給う遺
風なるべし

(イ)「疫神堂」記事

疫神堂(一鳥居の南、廊下の内にあり。この所、八幡宮御旅所なり。疫神は正月十九日一日の勧請なり。『延喜式』に曰く、山城と摂津の堺に疫神を祭るとあり。世人正月十五日より十九日まで、当山へ群参してその年の疫難を払ふなり。土産には蘇民将来の札・目釘竹・毛鑓等を求めて家に収め、邪気を退くるなり)

もはや厄神あるいは疫神とは何かを追求するものとはなっていない、といい得る。特に「蘇民将来」の木札が小児の疫鬼を払うという考えは示されていない。

要するに、山雲子坂内直頼が『山城四季物語』を著し諸人を啓蒙しようとしたところの世界は、仏事神事の由緒と効能であって、そこに中川喜雲『案内者』とは大きな差を認めなければならない。

七月七日の「本願寺立花の事」を記して

又東西の、本願寺にも、末寺家来より、立花・つくり花を、対面所の広椽(京女本「広縁」)にかざれり。これも立花はさらなり、造花はおもひ〳〵の細工を、あらそひ、台にしかけたり。折にふれたる、草花を以て、花・鳥・獣の、かたち、古事、古歌のおもかげまで、尽さすといふ事なし。

と『山城四季物語』は話す。山雲子には傍線部分が大切であったのである。

おわりに

京都女子大学図書館に蔵される『山城四季物語』全六巻六冊(386.162/Y44/1~6)は延宝二1674年開版本。山東京伝『骨董集』が引用するものよりも二百年程前の版である。縦267粍×横182粍の楮紙袋綴本。匡郭内の一面は十一行、一行21~26字詰め。柱書は「《四季一(二一・三・四・五・六)　十七》」の如し。濃紺色表紙に題簽は「山城四季物語(二一・三・四・五・六)」とある。

延宝甲寅九月吉日
書林　本間長兵衛開
　　大角八郎兵衛板

と刊記あり、延宝二年版である。なお、当該京女本には第六巻奥に

醒醒老人著ス所ノ骨董集上巻ニ燈篭踊ノ古跡ヲ載セテ延宝二年ノ書都歳時記ニ出ルト云而ルニ其歳時記ナルモノハ素ト山城四季物語ト称シテ延宝二年九月本間長兵衛大角八郎兵衛ナル者梓行セシヨシハ此書ノ奥書ニ見ユ其後(三十八年ヲ経テ)享保六辛丑年二月高麗橋壹町目浅野弥兵衛ナル者開板セシ時此跋壹丁ヲ省キテ都歳時記ト名ヲ改ム按ルニ骨董集ニ引ク所ノモノハ都歳時記ト云ハハ享保ノ後板ナル事明ケシサレドモ此後板ニテモ今世ニ稀ナレハ此古板ノ残レルハ豈珍重セザランヤ故ニ其事実ヲ記シテ後世ニ伝フ
安政二乙卯年秋九月　三園(花押)

と、江戸の国学者三園宮島左内の識語を有する。三園は第一巻表紙にも

山城四季物語全部六本延宝二年ノ板ニテ今世ニ存スルモノ至テ稀ナリ右三

『山城四季物語』覚書

はじめに

山雲子坂内直頼（正保元1644年頃～正徳元1711年頃）は、京都の人。その閲歴はよくは分かっていない。しかし彼に幾つかの著作が知られている。

①**山城四季物語**　六巻　延宝二1674年　山雲子名
②本朝諸社一覧　八巻　貞享二1685年　坂内直頼名
③説法用歌集諺註　十巻　元禄四1691年　山雲子名
④九想詩諺解　上・下巻　元禄七1694年　山雲子名
⑤**山州名跡志**　二十二巻　正徳元1711年　白慧名

等が知られるところである。坂内直頼は俳句も吟じたようである（『山城四季物語』附載風鈴軒友松跋）が、不詳。多数の名号字を使い分け、様々な分野に筆を及ぼしたのである。

上の著作物中に太字とした二点、『山城四季物語』（386.162/Y44/1～6）と『山州名跡志』（291.62/H19/1～20）を京都女子大学図書館は版本で架蔵、京都地誌群の中核と為している。両書は降世への影響も大きく、これを架蔵することは京都女子大学図書館の誇りである。

以下にこれを採り上げ紹介するが、引用に際しては次の要領による。

寛文十三年五月の京都大火の翌年、延宝二年に出版された『山城四季物語』は、伝鴨長明『四季物語』（続群書類従所収）と同名をもち、後に『都歳時記』（享保六年版）と改題出版される如く、年中行事案内書である。ここでは続日本随筆大成別巻所収本を用い、延宝二年版本で校合する。

天和二1682年、山崎闇斎が没し、吉川惟足が幕府神道方に補された三年後の貞享二年に出版された『本朝諸社一覧』は続々群書類従所収本を用い、無花果文庫本を以て校合する。本書は日本全国の著名社につきその由緒を調査したものである。

宝年五1708年の京都大火から未だ幾許も時のたたぬ正徳元年に刊行された『山州名跡志』は、新修京都叢書所収本に正徳元年版を以て校合。本書は、山城国名所案内記である。

山雲子ワールド

――中川喜雲著『案内者』と山雲子著『山城四季物語』――

伝鴨長明『四季物語』は、正月十九日とて

十日あまり九日は。やはたの御弓のゐ（射）はしめ。是又つわものゝつかさつかふまつれり。

と記す。後の年中行事書にはあまり見えないが、石清水八幡宮にて「射礼」が催されていたのである。ところが、これに対して操巵子著『諸国年中行事』（享保二年刊。続日本随筆大成所収本）では、正月十五日条に

八幡参、此日より十九日にいたつて諸人群参す、これを厄神まいりといふ、山城の国久世郡男山にたゝせ給ふ、石清水は山の半腹にあり。社領は七千四拾石余、祭神三座、中殿は応神天皇、東殿は玉依姫、西殿は神功皇后なり。清和天皇の御宇貞観元年八月、大和大安寺の僧行教、豊前の国宇佐の宮にこもり、御示現をかうぶり、奏聞をとげて、男山鳩の峰に勧請す。行教は天皇の功臣武内宿祢の後裔也。此天皇を八幡宮と号する事、紅白の幡の由来など、世人いひならはすといへども、左にはあらず。此天皇の御廟は河内の誉田にあり、宇佐に勧請あつて後、和気の清麿に託して、我はこれ誉田の八幡丸と御名のりましませしによつてなり。是ト部の兼邦説なり。厄神の社は下院を号す、延喜式にいふ所の、山城と摂津との堺にまつる所の役神といふ是也。貞観二年に行教法師神殿をつくる。

（一部漢字を現在通行字体に改めた。）

という。長明『四季物語』には「厄神参」語は存在せず、この行事参詣があったか否か不明である。一方、『諸国年中行事』では「射礼」の事は記されていない。この両者の差は、行事の変化と考えるべきか。江戸期の年中行事書は専ら「厄神参」を記している。

ところで、山雲子『山城四季物語』に先立つこと十二年、寛文二1662年に刊行された中川喜雲の年中行事書『案内者』（続日本随筆大成所収本）は、正月十九日条に記して次の如くいう。

八幡厄神参　小き木に蘇民将来とかきて小児の肩にかくれば、疫病を除くまじなひなり、そさのをのみことのはじめさせたまへる事也。この日破魔弓を爰にて買もとめ、子どもの土産とす。

そして『山城四季物語』巻一には次の如くある。

十九日疫神に参事

厄にあたる年、此神に参なり、社は八幡男山の麓にあり、延喜式に、山城国と津国のさかいに、疫神をまつると載たり、此神の事なり。けふ此所にて、ちいさき、木に、蘇民将来と書て、赤きふだを付て、売なり。これを、小児の肩に、かくれば、疫病をのぞくまじなひなり。又破魔弓を、うる事も、小児には、悪鬼の、見いれなんど、いふ事あれば、これを払といふ事なりとかや。

右に依れば、『山城四季物語』と『案内者』は聊か違いがある。中でも際だっているのは、『山城四季物語』が「厄にあたる年、此神に参なり」と、所謂「厄歳」を謂う点にある。『案内者』では「厄神参」と標目しながらも内容的には「疫神参」となっており、『山城四季物語』では標目「疫神参」に「厄神参」を謂っていることになる。

この山雲子の「厄歳」意識は『本朝諸社一覧』にも見えるところで

下院　役神社也　社記云貞観二年六月十五日行教造二神殿一云々
○延喜式所謂山城国与二摂津一之堺所祭之疫神者是也啓蒙　厄年ノ者正月十八九日之社ニ群詣スル也

と巻三にある。そして、『山城四季物語』より後れること二年、延宝四1676年に刊行された黒川道祐『日次紀事』では次の如く見える。

○正月十八日〔神事〕石清水　宿院頓宮前預建二榊数千本一表二疫塚一者也、入二夜宮守座神人各内一背園一榊而立、凡宮守上首謂二一行